

Windowsで コンテンツ マネジメントシステム

DotNetNukeをインストールしてみる

マイクロソフト株式会社
デベロッパーマーケティング本部
鈴木 祐巳
SUZUKI, Masami

Level

1 2 3 4 5

Technology Tools

- Visual Basic
- Visual C#
- Visual C++
- SQL Server
- Oracle
- Access
- ASP.NET
- Other:
DotNetNuke

Samples

注) 8月22日付けで新しいバージョン (3.1.1) がリリースされました。ダウンロードサイトやインストールの手順は変わりませんが、画面などで変更がなされているようです。

コンテンツマネジメントシステムとは

なぜWebサイトを使うのか

Webサイトの利点を、あらためてここで述べる必要はないだろう。本誌の読者であれば、Webなしに生活できないと思っていても不思議ではない(実際、筆者は、ネットなしの生活など考えられない)。Webは情報流通の手段を改革し、リアルタイムにあらゆる情報へアクセスできるようにした。つまり、Webは情報を伝える手段なのである。

CMSの必要性

Webブラウザを用いた情報へのアクセスはとても簡単である。検索エンジンを用いる、もしくは、既知のURLへアクセスするなどの手段で、Webブラウザ上にはいつでも必要な情報が表示

される。しかし、同じくらいの簡単さで情報発信ができるわけではない。

Webの黎明期において、Webサイトの作成手段はテキストエディタだった。Webサイト作成者は、HTMLタグやWebブラウザで動作するクライアントスクリプトの文法を習得した上で、それらを直接記述したものだ。

もちろん、テキストエディタはWebサイト開発に特化したツールではない。そこで、専用のWebサイト作成ツールが登場してくる。代表的なものとして、IBMの「ホームページビルダー」やMicrosoftの「FrontPage」、Macromediaの「Dreamweaver MX」などがあげられる。これら“HTML用WYSIWYGエディタ”と呼ばれるツールは、ワードプロセッサと同等の操作性でWebページが作成できる。文章や画像を配置すると、自動的にHTMLを生成してくれるのである。さらに、HTMLを修正することで、それをWYSIWYG画面に反映する機能を備えたツールも登場した。

一方、サイト規模が大きくなれば、HTML記述の部分を補うツールだけでは、サイト運用が難しくなる。優れたWebサイトを構築するには、少なくとも以下の4項目が必要になるだろう。

- ・HTMLの書き方を標準化
- ・サイト全体のナビゲーション方法の統一
- ・コンテンツ(おもに文章や画像)のクオリティチェック
- ・コンテンツに間違いの有無を検閲する仕組み

こういったWebサイト構築における複雑な作業をサポートするためのツ

ルがコンテンツマネジメントシステム（以下CMS）と言える。

CMSの種類

CMSは大きく、

- ・ ワークフローなどを備えた大規模CMS
- ・ Blogシステム
- ・ 中小規模CMS

の3種類に分類される。

たとえば、HTMLエディタにWordを採用し、コンテンツのワークフロー管理/配置/更新/リンク管理ができるMicrosoft Content Management Server (MSCMS) は、大規模CMSに分類される。

一方、もっとも小規模のCMSに分類されるのがBlogシステムだ。限定された形式のコンテンツに特化している形であるが、Blogシステムは、そのほとんどがブラウザベースである。HTMLタグの記述は不要で、コンテンツ管理/配置できるソリューションを提供しており、CMSに分類することができる。そして、大規模CMSと、Blogシステムのちょうど中間に位置するシステムが、中小規模CMSと分類される。

CMSとしてのBlogシステム

Blogシステムは、誤解を恐れずに表現すれば、「Web上で日記をつけるためのシステム」といえる。多くのBlogシステムでは、作成されたコンテンツは日時順、カテゴリごとにアクセス可能なリンクメニューが自動的に作成される。コンテンツの項目も、「タイトル」「本文」「投稿日時」「(コンテンツ分類用の) カテゴリ」など、ほぼ固定された構造である。

Blogシステムをインターネット日記以外で活用しようとする場合、この固定された構造で対応可能かどうか、がBlogシステムをCMSとして利用価値があるかどうかの判断基準となる。

たとえば、企業サイトに必ず存在する「新着情報」や「プレスリリース」といったページは、日付順に分類することが多いため、Blogシステムを活用するのに適したコンテンツであるということは容易に想像でき、実際、Blogシステムを用いて、これらのコンテンツを更新しているWebサイトは数多く存在する。しかし、このような構造ではサポートできない

コンテンツを扱う場合は、Blogシステムでは当然のことながら、まったく対応できない。

そこで最近注目を集めているのが、柔軟にコンテンツを扱いつつ、Blogシステムが備えているようなコンテンツ管理機能を提供する中小規模のCMSである。

DotNetNukeとは

DotNetNuke (以下DNN) は、BSDライセンスをサポートし、ASP.NET上で動作する中小規模向けCMSで、ソースも含めて無料でダウンロードできる。DNNは、MicrosoftがVisual Studio .NET 2002のサンプルアプリケーションとしてリリースしたIBuySpy Portalをベースとし、拡張を重ねて現在の姿となった。

DNNは、“モジュール”と呼ばれる部品を貼り付けてWebページを構成していく。ページには上下左右、および、中央のペインがあり、これらを使いわけることにより、自由にサイトレイアウトを決定できる。

管理可能なコンテンツは、モジュールの機能に依存している。DNNには標準で、19種類のモジュールが提供されており、TEXT/HTMLモジュール、Linksモジュール、Announcementsモジュールなど基本的なWebサイト構築に必要なパターンを網羅している。よりユーザーに特化したモジュールであれば、Visual Basicを用いて開発も可能なので、広くさまざまな要求に応えることもできる。実際、<http://www.dotnetnuke.com/>には、DNN利用者が開発したモジュールが数多く用意されている。

インストールの実際

ここまでで、DNNの大まかな概要がつかめただろう。だが、イメージだけではその有用性がつかみきれない。DNNは先述したとおりサンプルアプリケーションがベースとなっているだけに、インストールも実に簡単だ。

ここではインストールの手順を紹介する。

インストールの手順は以下の通りだ。

- ① DNNの必要システムとMSDEのインストール
- ② DNN本体と日本語リソースのダウンロード
- ③ DNN本体/日本語リソース圧縮ファイルの展開と配置